

Iターンして12年 ～新たな笠沙ブランド～

笠沙町漁業協同組合 伊東正英

1 地域の概況

笠沙町は薩摩半島の西端部にあり、大浦町と坊津町に隣接しています。町の産業は、漁業が中心で、町内には笠沙町と野間池の二つの漁協があります。

私が所属するのは、笠沙町漁協で、魚類養殖、定置網や曳縄漁が行われ、平成14年度の水揚げは、1,473トン、6億3千万円となっています。

最近では、水族館への展示魚の供給基地にもなっており、かごしま水族館やマリンワールド海の中道の「ジンベイザメ」も当漁協から供給したものです。

私は、東京育ちで、いわゆる「Iターン漁業者」の一人です。今回は、私が、笠沙町で漁業に携わることになった経緯や、現在の漁業活動、水族館への展示魚の出荷、地域活動等について紹介します。

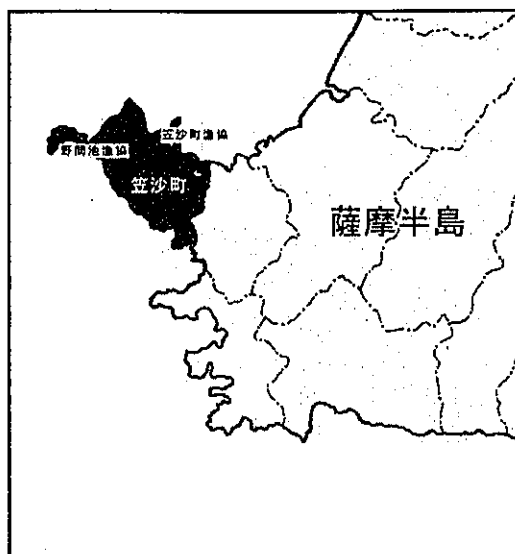


図1 笠沙町の位置

2 就業までの経緯

私は、生まれは長野ですが、東京で育ちました。父親が釣りが趣味で、その影響を受け、私も小学生の頃から釣りを始め、川や池、湖などへ足を運んでいました。そのうち釣りだけでなく、釣った魚を家の水槽で飼育するようになり、次第に魚に興味を持つようになりました。高校卒業後は動物関係の専門学校に入り、海洋生物科で学びました。東京都葛西臨海水族園のオープン準備スタッフの募集があり、将来水族館での仕事を希望していましたので、勉強になると思い、アルバイトを始めました。水族園のオープン後は飼育スタッフとしてマグロの飼育に携わりました。その時扱っていたマグロを収集していたのが、ここ笠沙でした。学校卒業後もそのまま水族園でアルバイトを続けましたが、そのまま続けても、職員にはなれないのと、なれても専門学校での知識だけでは、長く飼育の仕事続けるのは難しいと聞き、水族園を辞めて、水産の大学を目指しましたが、大学受験も失敗に終わりました。仕事を探していた時、水族園の職員の方が、高知で漁業を始める事となり、仕事のなかった私は引越しの手伝いに行き、そのまま約二ヶ月間居候しました。そこでの生活が今まで経験した事のないもので、次第にこのような生活に憧れるようになり、何とか自分でも漁業をやりたいと思う気持ちが強くなりました。そこでその方に水族園でかかわりのあった笠沙町漁協を紹介してもらい、漁協より現職場の丸世大吉漁業生産組合を紹介され、就業するはこびとなりました。

3 就業後の経過

就職は決まったものの、私は定置網は元より、漁業に関しては、何もわからない状況でした。当初はとにかく仕事を覚える事もでしたが、予想もしていなかった鹿児島弁の壁にぶつかりました。最初はかなり悩みましたが、一年半位かかってようやく分かるようになりました。仕事の方も先輩達に教わりながら、覚えました。仕事は当初、ただ言われた通りやるだけで、何をしているのか解らないまま、自分に与えられた事をするだけで、「戸惑い」と「何かしな



図2 定置網の操業状況

いと」と気が焦るばかりでした。沖での仕事はそれぞれ役割分担されており、自分のポジションの事しか分かりませんでした。乗子が辞めるたびに、運良く自分のポジションが替わったため、全体の仕事を覚えることができました。船の免許は専門学校の時4級を取得していましたので、操業の合間に船外機の操縦を覚えていきました。3年目には社長の薦めもあり、1級の免許を取得しました。

4年目にはそれまでの船長が辞めたことで、そのあと舵を握らせてもらいました。初めて舵を取った時は、今まで使っていた船外機との違いに驚き、かなりの緊張と不安を覚えました。仮にロープをペラに巻いただけでシャフトが曲がり、本船を使うことができなくなり、仕事が出来なくなるうえ費用も掛かってしまい、みんなに迷惑が掛かってしまいます。また、操作を誤ると大変大きな事故やケガにつながりかねませんので、一瞬たりとも気を抜くことができません。常に緊張の糸を切らないように努めています。

9年目に船頭が辞めてからは、仕事全体を任されるようになりました。事前に船頭から後を託されていた私は、船頭が辞めるまでの約3ヶ月間、その一挙手一投足を注意深く観察するとともに、頭の中でも何回も網替えを繰り返す日々が続きました。船頭は仕事全体を把握していないといけないし、その場その場での状況判断をしないといけません。私にとって初め、ものすごく抵抗があったのが、乗子へ指示を出す事でした。ほとんどの人が私より年上だった事、自分の指示、判断によって仕事の進み具合も変わって来るし、それを誤れば乗子達をいら立たせたり、ケガを負わせる結果となってしまうからです。仕事をスムーズに進めていく上で今までの経験と知識を最大限に生かし、自信を持ち、乗子達ひとりひとりの性格まで考慮し、的確な指示を出さなければなりません。また、天候により、仕事の段取りが狂ってくることもよくあり、なかなか自分の思い描くようにはいきません。とにかく船頭という立場になってからは、仕事がいきなり何十倍も何百倍も増えた気がします。これからも日々勉強し経験をたくさん積んで、誰からも認められる船頭になるよう頑張ります。

定置網はIターンの私から見れば、個人で始めるには、仕事の面、収入の面でかなり難しいですが、仕事は先輩達に教えてもらえ、収入の面でも、会社組織になっている所では固定給があるので、初めての人にはとても都合も良く、漁業の基礎を身に付ける事が出来、大変奥も深く、とてもやりがいのある漁業だと思います。私の場合、歩合給も

あり、運良く就業三ヶ月目にブリの大漁があり、収入に上限のない漁業の魅力も味わう事ができました。

4 水族館への展示魚の供給

笠沙町漁協では、葛西臨海水族園やかごしま水族館、名古屋港水族館などを中心に、曳縄により捕獲したカツオ・マグロ類の種苗を供給しています。また、定置網などで獲れるジンベエザメ、シュモクザメ、その他の魚類、イカ類、貝類などの水産動物を、北は北海道、南は沖縄、海外では香港や上海などの水族館に供給してきました。

私が笠沙に来た時は、まだ夏場にカツオ・マグロの収集をしていただけでしたが、しばらくして定置網の魚も利用されるようになり、また懂れていた水族館に関係した仕事に携わるとは思ってもみませんでした。笠沙ではどのような魚がどの時期どれだけ獲れるのか、水揚げされる魚は伝票で記録が残りますが、それ以外の捨てているような魚に関しては何もわからない状態だったので、それを調べれば面白いかなと思い、趣味で毎日欠かさず魚種をチェックし、約5年間続けました。幸いそれが役立ちその結果から定置網では、市場に出回らない魚まで含めると、一日で約50種、年間にして300種近い魚介類が獲れることが分かりました。もう仕事に従事して10年以上になりますが、いまだに初めて獲れる魚種もいます。また標本でしか見た事のない魚が生きた状態で見られて、感動することもあります。定置網は魚種も豊富なおうえ、網の中を魚が泳いでいるので、傷が無く、状態の良い魚を獲ることが出来ます。

水族館では一般に熱帯魚と呼ばれている、色や形のきれいな魚に関しては、地元、もしくはそれを扱っているペットショップや業者から購入しています。しかしそれ以外の魚に関しては、水族館の職員が魚の獲れる場所を探し、近辺の漁協や魚の種類によっては遠方の漁協まで出向き常駐して魚を集め、運んでいます。そのため、水族館としては、人件費が掛かるうえ、その間、飼育スタッフが減る事になるので、かなりの負担となります。そこを笠沙町漁協では、定置網などで獲れる魚などは、電話などで注文を受け、定置網の従業員でイケスを構え、魚の収集・給餌を行い、集まると連絡をして引き取ってもらうシステムで行われています。この方法ですと水族館の職員は魚の搬出時のみ居れば良く、水族館側の負担が減る事になります。また、笠沙には水族館用の魚介類を収集から搬出まで仕事としてやっている人が数人おり、この人たちを経由する場合は、職員が現地まで来ること無く魚が水族館まで届くので、特に遠方の水族館で利用されています。

また、注文を受けていない魚でも、珍しい魚（深海魚や、水族館での飼育例が無い、もしくは少ないもの。展示価値のあるもの）が獲れた場合はこちらから連絡をします。私の場合、普通の漁師さんでは気付く事のない、展示価値のある魚を見分ける事も出来、以前に水族館で働いていた事がこのようなところで生きてきます。

水族館へ搬出している魚は、こちら側の手間が掛かる分、非常に高値で取引されます。普段は捨てている市場に出ない魚や安値の魚などでは、かなりの付加価値が付くことになります。市場で高値にて扱われる魚でも、それに手間費が上乗せされます。最近では水族館ブームも一段落し、不景気や飼育技術の向上により注文が減ってきていますが、魚価が低迷している今日、水族館の魚の取り扱いを増やしていきたいところです。しか

表 1 展示魚の供給先および魚種等

供給先	県内	かごしま水族館
	県外	登別マリンパークニクス(北海道), 浅虫水族館(青森県) アクアマリンふくしま(福島県), 葛西臨海水族園(東京都) 八景島シーパラダイス(神奈川県), 名古屋港水族館(愛知県), 須磨海浜水族園(兵庫県), 宮島水族館(広島県) 島根海洋館アクス(島根県), マリンワールド海の中道(福岡県) 沖縄記念公園水族園(沖縄県) 等
	海外	上海, 香港 等
採捕漁業と 魚種	曳縄	マグロ類(クロマグロ, キハダ), カツオ類
	定置網	サメ類(シュモクザメ, メジロザメ, ジンベイザメ等) エイ類(トビエイ, ナルトビエイ等), 瀬物類, イカ類
	一本釣 刺網 底曳網	瀬物類 エビ類, カニ類, ウニ類, タコ, 貝類, イカ類

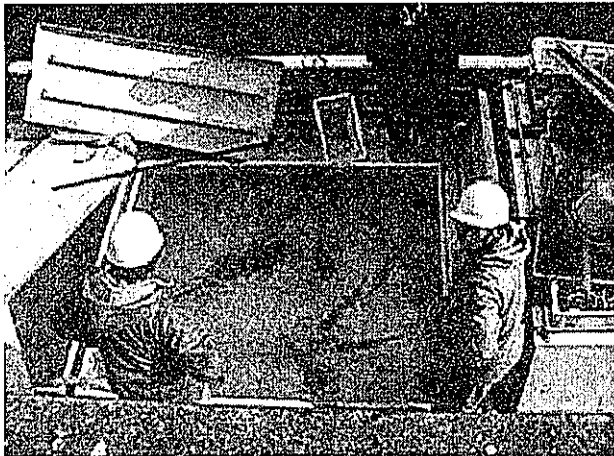


図 3 水族館へ出荷する魚



図 4 水族館への出荷作業

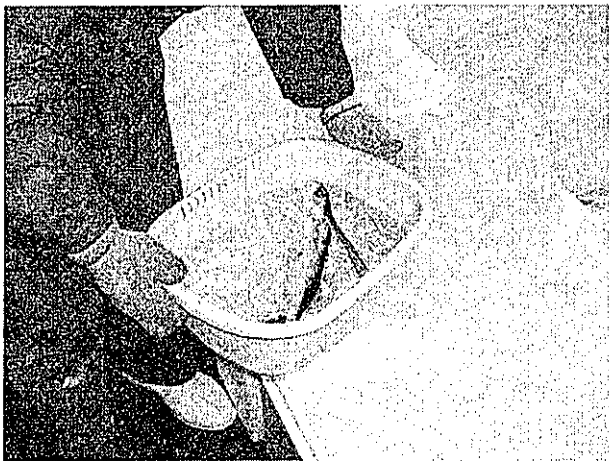


図 5 トビウオの出荷

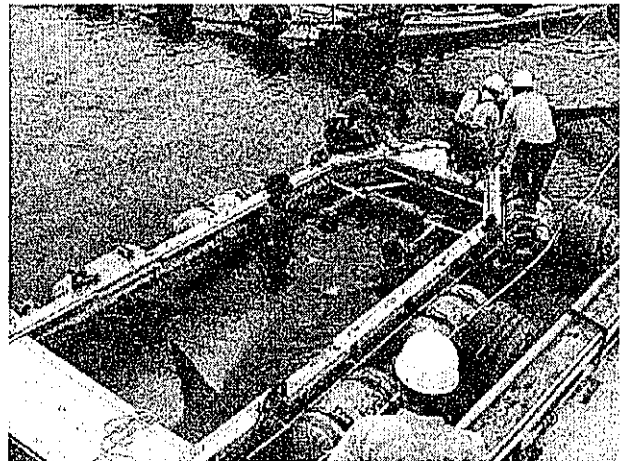


図 6 ジンベイザメの出荷

し、それにはこちら側が水族館側に認められるように努力が必要です。例えば魚の名前（地方名、特に地元での呼び名は通じず、標準和名を覚える。特に市場に出回らない魚は認識不足）や、魚の獲れる時期、尾数などを正確に把握するとともに、魚の取り扱い技術（採集、蓄養、餌付け、搬出）を確立しなければなりません。

表2 水族館用展示魚の確保のためのポイント

- | |
|-----------------------------|
| 1 展示価値のある魚を見極める |
| 2 魚の標準和名を覚える |
| 3 事前に魚の獲れる時期、量を把握する |
| 4 魚の取り扱い技術（採捕、蓄養、餌付け等）を確立する |

現在、笠沙では扱う側の認識・知識・経験が蓄積され、特に以前は活かし込みが非常に難しかったサメ類（シュモクザメ類、メジロザメ類）でも巧く出来るようになったことから、笠沙町は水族館用展示魚の主要な供給基地として全国の水族館関係者から高く評価されています。これからも地元と水族館側が共に努力、協力し、より多くの魚達を水族館で見てもらえるようにしていきたいと考えています。

5 地域活動への参加

仕事の他に笠沙では、漁協の青壮年部、定置網振興会に所属しています。今までにマダイの中間育成や海岸清掃、現地研修視察、花嫁対策の一環として女性との交流会、クリスマスパーティーなどの活動を行ってきました。なお、花嫁対策の交流会は、かみさんと出会うきっかけになりました。

特に力を入れて取り組んだのが環境問題で、豊かな海を残すために、近海で行われていた海砂採取に関しては、海砂採取によって環境が破壊された瀬戸内海で被害の大きかった広島竹原市へ視察を行い、現地で環境破壊を訴えていた方々にお会いし、現状や採取禁止になるまでの経緯を伺い、船まで出して頂き、被害状況の視察を行いました。

また、吹上浜沖でも、採取跡の様子をロボットカメラで観察し、海底の荒らされた様子が確認されたため、環境破壊を訴え、周辺漁協とも連携をとりながら、周辺の住民を始め県民やそのほかの方々から、採取反対の署名を集め、県や各機関などへの陳情を行いました。また、より多くの人達にこの事実を知って頂くために、定置網振興会の青年部でホームページを立ち上げました。ホームページ（<http://www3.synapse.ne.jp/seaboy/teichi.htm>）ではそのほかに青年部の活動状況や笠沙の自然、出来事、漁模様などを掲載していますので、是非ご覧いただきたいと思えます。

最近の活動では全国的に磯焼けが問題視されていますが、笠沙でも県や町の指導のもと、ホンダワラやアマモの藻場造成にも取り組んでいます。

6 今後の取り組み

今後は自分の夢としては独立して定置網の操業をしてみたいと考えていますが、最近では漁獲の減少や魚価の低迷などで、莫大な資金を掛けて漁を始めるには極めて困難と

思われます。定置網は、他の漁業と異なり網仕事が無いときは自由に使える時間があります。従って今のところは現在の仕事を続けながら、あいた時間を使って、船外機での一本釣や籠網など、比較的資金を必要としない他の漁業にも挑戦できたらと考えています。

また、笠沙町の豊かな自然を子供たちに残せるよう環境に常に目を配り、努力して守って行くことが必要だと思っており、関係者と連携して行きたいと思えます。

最後になりますが、東京育ちの私を快く受け入れてくださった地域の皆さんに心から感謝いたします。

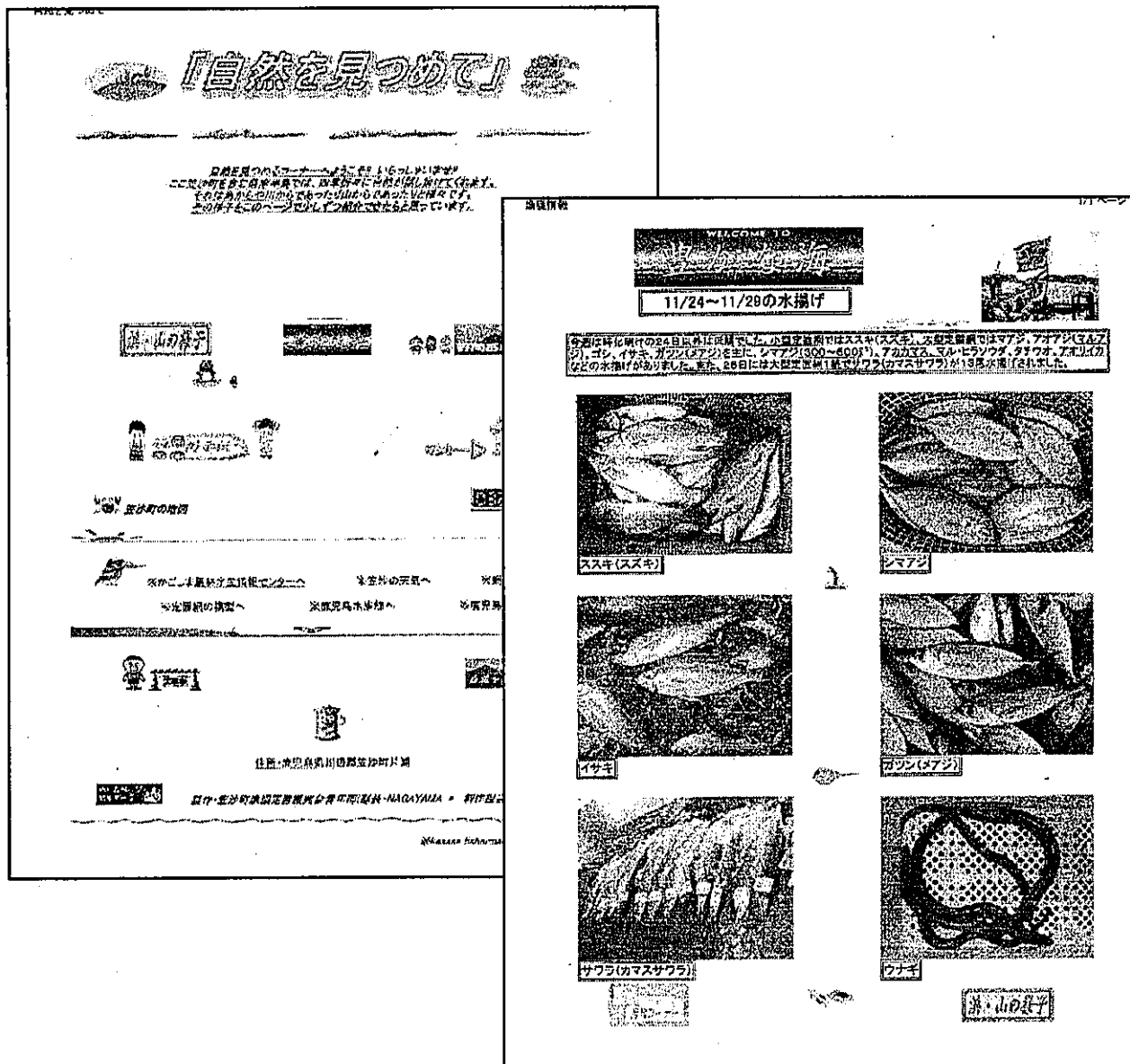


図 7 定置網振興会青年部のホームページ (<http://www3.synapse.ne.jp/seaboy/teichi.htm>)